

令和3年度 学校自己評価結果報告書

学校法人蒲原学園
幼保連携型認定こども園
蒲原学園幼稚園
やぐらこども園

1. 教育・保育方針

乳児期

子どもたちが保育者を信頼し、園生活を楽しんでおくれるよう、全力をもって取り組む。
マスクのできない乳児の子どもたちを新型コロナウイルスから守るために、職員一丸で園内の環境整備に取り組む。

幼児期

新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐため、手指消毒やマスクの着用など、新しい生活習慣を身につけ、園外の生活においても自分の身を守れるようにする。感染者数の状況によるが、できるだけたくさん遊び、本物の体験をする。それらの経験を通して、何事にも積極的に取り組んでいける力を育む。

2. 重点目標及び計画

- ・職員の資質向上に努める
- ・職員の幼保連携体制を構築する
- ・職員のワークライフバランスを向上させる

3. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	結果	取組み内容及び評価理由
職員の資質向上	C	新型コロナウイルスの影響があり、研修参加は最低限にとどまっている。
幼保連携体制の構築	A	コロナウイルスの園内感染防止のため、職員間で子どもたちの活動時間・場所を話し合ったり、連携が進んだ
ワークライフバランスの向上	C	年末年始や行楽シーズンには決まってコロナ感染者数が増加するため、職員の休日も旅行などには積極的に行けない1年となった。

※評価基準 A：充分達成 B：達成 C：成果が不十分 D：取組が不十分

4. 今後取り組むべき課題

新型コロナウイルスへの対応にも慣れ、ワクチンの接種が進んだことから、感染者数が多くない時期には行事を行うなど、昨年とは違う局面を迎えたと思われる。

しかし、令和4年に入ってからオミクロン株が流行し、子どもの感染者が多くなった。幸い重症化する事はないが、感染者が出た場合はクラス閉鎖となるので、保護者に与える負担も大きく、園内での感染防止策の徹底が重要な業務となってしまった。

教育・保育に関する共通認識として

オミクロン株の流行によって、子どもにも感染する事が多くなり、園内にも感染者が増えた。

保育の場においては子どもたちの濃厚接触が不可避であり、これを禁止しては教育・保育の現場が成り立たない。

いかにしてこの難題をクリアしていくか、保育者が共通認識として持つ事が重要である。

5. 来年度に向けて

まだまだ先が見えない新型コロナウイルスのパンデミックであるが、子どもへのワクチン接種も検討されていることから、来年度には子どものマスク着用解除を検討するべきではないか。

静岡市の指導のもと、周囲の園の状況なども情報収集しながら、慎重に検討していきたい。

6. 学校関係者からの評価

特に指摘すべき事項はなく、妥当であると認められた。

7. 財務状況

公認会計士による会計監査により、適性に運営されていると認められた。

8. 静岡市による監査結果

文書指摘事項はありませんでした。